



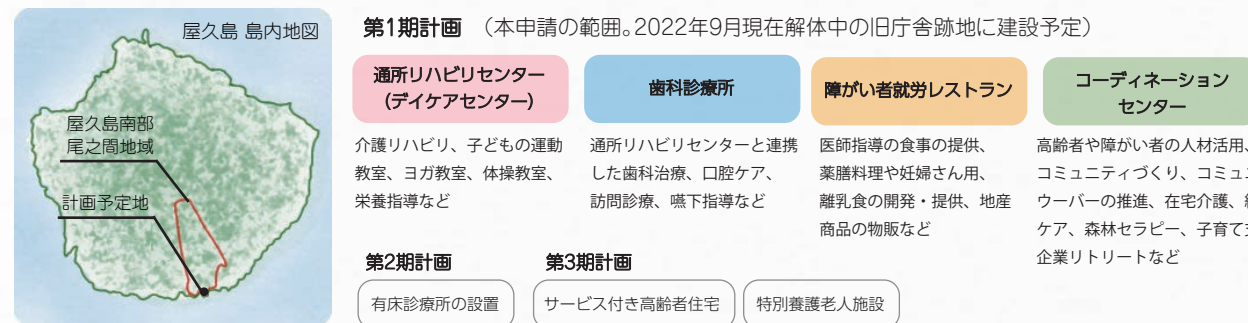
屋久島 おじゃんせウェルネスセンター

「誰もが住み慣れた場所で、末永く安心して暮らしたい」
自然のリズムと調和し、自然と共に生きる



人と自然の再生と世代を超えた暮らしを創造する 屋久島南部の医療・介護・福祉拠点

古代の森を抱く屋久島。この豊かな自然の恵みを体感する建築を通して、人間の潜在能力を回復することを目指す。医療・介護・福祉施設。大きな医療施設のない屋久島南部地域で、地域住民が安心して健康に過ごすことのできる拠点をつくる。本計画は、3期10年間整備計画の第1期に該当する。高齢者化社会の健康寿命の延伸のためのフレイル予防、サルコペニア予防を行いながら、建物だけでなく大地そのものがリハビリの場となる。さらに、世代・地域・島内・島外の人々を繋ぐ交流拠点となることを目的とする。



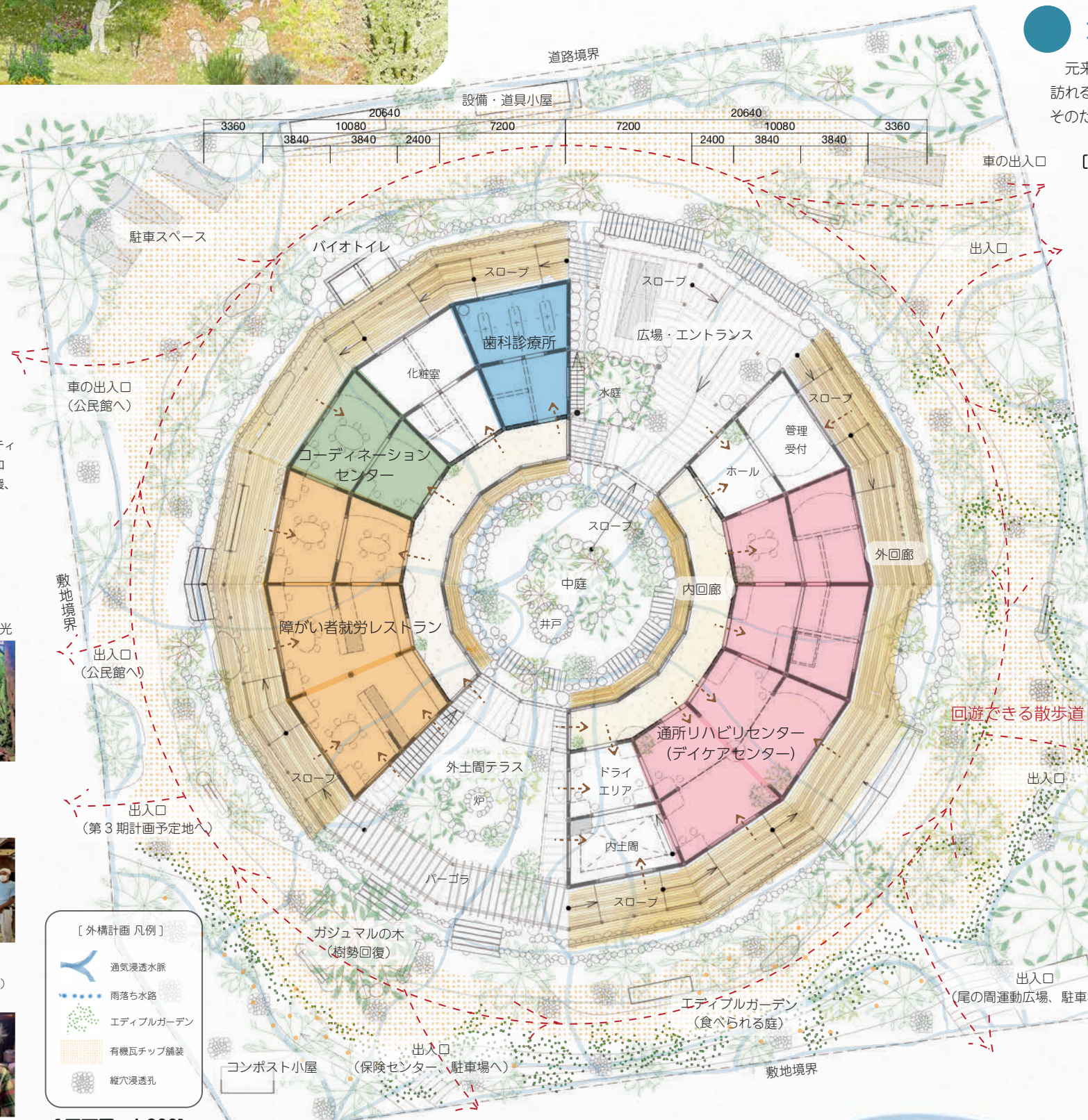
施設の運営にあたり、地域の人々と連携が取れる体制を構築

尾之間診療所での診察、保険センターでの予防接種、日常の行政手続き、障がい者施設が企画する新商品の開発と販売、森林ガイドによる森林セラピーの他、町役場とも連携。災害時の対応なども考慮しながら計画を進めている。



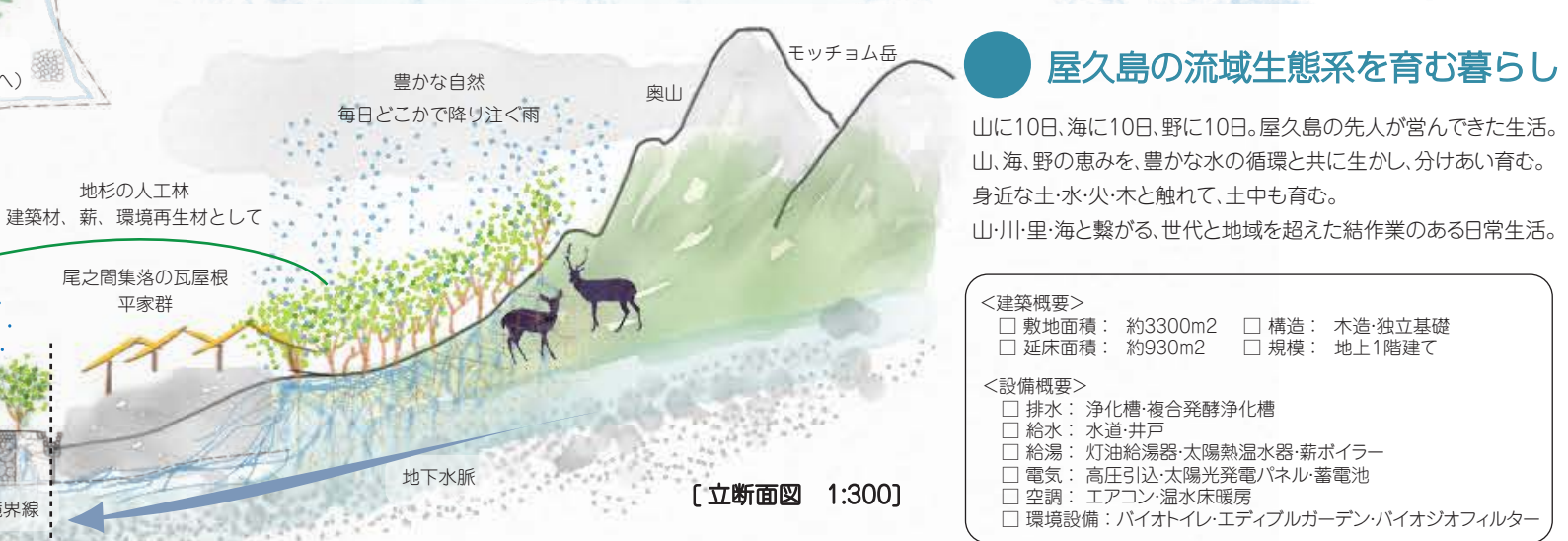
環境の建築

人を含む生物の命の実体はそのリズムにある。生物の体内リズムも環境の中の様々なリズムも基本はサーカディアンリズムを元にして網の目の様にすべてが関連づけられている。地球が太陽の周りで円運動を行い、土壌が円運動の周期的エネルギーの変動に寄り添って生態系を作り出す。私たち人間も、その生態系の一要素だから両者のリズムは同調している。建築は私たちが生み出したいわば乗り物だが、自然のリズムに寄り添って私たちに健康に導いてくれる乗り物とはどういうものだろう。それはおそらく大地に埋められた日時計・羅針盤のように、太陽と大地の関係を生み出す拠点として機能し、人工環境や社会システムの中で疲弊した私たちを自然の正しいリズムに同調させてくれるものであろう。そんな思いをこの建築の形に込めた。



大地とつながる建築

元來この地に備わっていた屋久島の森の循環機能を回復させ、建物与自然と同調しながら、人々を繋ぐ。訪れる人々は屋久島の自然の恵みと、ここで生まれるコミュニティから、心身を癒し、健康を回復させてゆく。そのための持続可能な環境づくりとして、この地の地盤を観察し、土中環境から整える建築計画としている。



屋久島の流域生態系を育む暮らし

山に10日、海に10日、野に10日。屋久島の先人が営んできた生活。山、海、野の恵みを、豊かな水の循環と共に生かし、分け合い育む。身近な土・水・火・木と触れて、土中も育む。山・川・海と繋がる、世代と地域を超えた結作業のある日常生活。

- <建築概要>
 - 敷地面積: 約3300m²
 - 延床面積: 約9300m²
 - 構造: 木造独立基礎
 - 規模: 地上1階建て
- <設備概要>
 - 排水: 浄化槽・複合発酵浄化槽
 - 給水: 水道・井戸
 - 給湯: 灯油給湯器・太陽熱温水器・薪ボイラー
 - 電気: 高圧引込・太陽光発電パネル・蓄電池
 - 空調: エアコン・温水床暖房
 - 環境設備: バイオトイレ・エディブルガーデン・バイオジオフィルター